学校番号	１２０１

令和５年度　地理歴史科

教科	地理歴史科	科目	日本史ＢⅡ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	新日本史 改訂版　（山川出版社）						
副教材等	図説　日本史通覧　　（帝国書院編集部）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史の大きな流れを感じる。
・歴史的事象の相互の関連性を考える。
・歴史の背景を理解し、現在の日本や世界の問題について考える視点を持つ。

２　学習の到達目標

・歴史の諸資料に親しみ、歴史的思考力を培う。
・日本の歴史を理解し、国際化する社会に生きる個人としての知識と主体性を養う。
・現代の諸課題について、歴史的背景と結び付け、その側面を考慮に入れながら、考察することができる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	歴史的・地理的事象に対する関心と問題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際化する社会に生きる個人として主体的に責任を果たそうとする。	歴史的・地理的事象から課題を見いだし、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	歴史的・地理的事象に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	・授業に取り組む姿勢 ・課題への取組状況	・授業の発言と発表 ・課題の成果 ・定期試験	・授業の発表 ・課題の取組状況と成果 ・プリントのメモ状況	・定期試験

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		

1	7章　幕藩体制の確立	1．織豊政権 2．江戸時代の政治の仕組み 3．江戸時代の社会の仕組み 4．江戸時代初期の対外関係	○	○	○	○	a:織豊政権と幕藩体制について興味をもち、追究している。 b: 新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景をふまえて考察する。 c: 絵画資料をもとに、それぞれの身分の暮らしや琉球・朝鮮・蝦夷地との交易など、東アジアの動向について読み取ることができる。 d: 織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義と江戸幕府の成立による幕藩体制の政治システムを理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
1	8章　幕藩体制の展開	1．幕政の安定 2．江戸時代の経済の仕組みと発展 3．元禄文化 4.幕政の展開	○	○	○	○	a: 江戸時代の経済や元禄文化について興味をもち、追究している。 b: 経済の発展と関連して町人文化が形成されたことについて、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて考察している。 c: 地図から、全国規模での陸上・水上交通の発達や商品流通の活発化について読み取ることができる。 d: 文治政治への転換から元禄時代・正徳の政治を取り上げ、幕政の安定過程と享保の改革の諸政策とその成果、田沼時代の経済発展を理解している。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

1	9章　幕藩体制の動揺	1．社会変容と対外危機 2．化政文化 3．内憂外患と改革	○	○	○	○	a：幕藩体制の動揺について興味をもち、追究している。 b：近代化の基盤の形成について、産業経済面や軍事面などに着目して、地方からの視点をふまえて考察している。 c：19 世紀前半に外国船が接近した理由を、世界史年表と地図から読み取ることができる。 d：欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処をふまえて、幕藩体制が動揺していく過程を理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
2	10章　近代国家の成立	1．開国と幕末の動乱 2．明治維新と文明開化	○	○	○	○	a：開国と明治維新について興味をもち、追究している。 b：廃藩置県・四民平等・地租改正・殖産興業政策などに着目して、明治新政府が強力な中央集権体制を構築していく過程を考察している。 c：五榜の掲示などの史料から新政府の政策を読み取り、グラフ資料から貿易の実態を読み取る。 d：開国から明治維新に至るまでの過程について、国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

2	１１章　立憲国家の成立と日清・日露戦争	１．自由民権運動と大日本帝国憲法 ２．初期議会と条約改正 ３．列強の中国分割の始まりと日露戦争 ４．日露戦争後の政治と社会 ５．近代産業の定着 ６．近代文化	○	○	○	○	a:立憲国家の成立について興味をもち、追究している。 b:政府の強力な中央集権体制の志向の中、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察している。 c: 風刺画から当時の国際情勢を読み取ることができる。 d:日本が近代国家として国際的地位を確立するため、条約改正やそれに伴う諸法典の整備など国内体制の確立を図り、朝鮮問題を機とする日清・日露戦争により欧米に近づこうとした点について理解している。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
2	１２章　大正デモクラシーと政党政治	１．第一次世界大戦と大陸進出 ２．大正デモクラシーとワシントン体制 ３．政党政治の展開 ４.市民文化の時代	○	○	○	○	a: 大正時代の政治と民衆について興味をもち、追究している。 b: ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して考察している。 c:グラフ史料から産業構造の変化や経済動向について読み取ることができる。 d: 第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関連や政党内閣の成立などと関連させて理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

2	１３章　第二次世界大戦と日本	１．中国問題と軍部の政治的台頭 ２．日中全面戦争と第二次世界大戦 ３．太平洋戦争	○	○	○	○	a: 日本の対外戦争について興味をもち、追究している。 b: 日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出の拡大による政党内閣の崩壊過程もふまえて考察している。 c:地図とグラフ史料から、太平洋戦争がもたらした被害の範囲とその実態を読み取ることができる。 d: 太平洋戦争を含む第二次世界大戦について、国家間の相違や総力戦の特色をふまえ、この戦争が空前の惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を理解している。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
3	１４章　占領と国際復帰	１．戦後改革 ２．冷戦とサンフランシスコ講和会議	○	○	○	○	a:戦後日本について興味をもち、追究している。 b: 東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結し、日本が独立した意義について考察している。 c: 労働三法・教育基本法の制定などの史料から、日本の国民の戦争に対する反省について読み取ることができる。 d: 戦後政治の動きをふまえて、集大成となる日本国憲法制定の意義を理解している。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

3	15章　55年体制と高度経済成長	1．55年体制の成立 2．高度経済成長と保守政権の定着 3.経済大国日本	○	○	○	○	a: 日本の高度経済成長について興味をもち、追究している。 b: 冷戦構造に雪解けの状況が生まれる中、日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への加盟、アメリカ・ソ連・中華人民共和国・大韓民国との関係に着目して、独立回復後の日本の動きを考察している。 c: ＭＳＡ協定・新安保条約・日ソ共同宣言・日韓基本条約・ＬＴ貿易などの史料から、外交・政治の再編過程を読み取ることができる。 d: 消費革命による社会の変貌と、経済成長がもたらしたひずみである社会問題について理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査
3	第16章　冷戦の終了と55年体制の崩壊	1．新しい秩序形成への模索 2．現代文化と日本の進路	○	○	○	○	a: 現代の日本について興味をもち、追究している。 b: 冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面をふまえて多面的・多角的に考察している。 c:歴史的な過程を考慮しながら、実際の新聞やニュースから現代の課題を読み取ることができる。 d: 科学技術・産業の発達によって派生する環境問題やエネルギー問題などの日本の課題と、それに対する日本の役割を理解する。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c: 資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。